

# 地域防災から広げる「輪(コミュニティ)」プロジェクト

## ～活動契機～

私たちは“防災による地域作り”をモットーに、秋田県にかほ市象潟地区を対象に活動を行っています。秋田県でも、地震を発生する活断層は地下に多く眠っており、内陸直下を始め、日本海で地震が発生した時の津波被害は無視出来ないものと思います。そんな中で、“如何に早く避難場所へ逃げられるか”、“如何に多くの方が避難出来るか”というソフト対策の面を私たちは考えています。

## ～実際に歩いて作る防災マップ～



写真Ⅱ：フィールドワークを元にした防災マップ

写真Ⅲ：各自治会長と行った意見交換会の様子→

## ～自分の住む土地をより意識する為に～

自分のいる位置が今どの標高にいるのかよりイメージしやすくする為に、高低差を付けた「3D防災マップ」を作成し、防災マップのブラッシュアップを行いました。私たちは“共に考え、解決する”立場として、学生からのアプローチをおこなっています。



写真Ⅳ,Ⅴ：標高と浸水想定を取り入れた3D防災マップ

今後、象潟地区において防災イベントを実施する予定です。防災において、住民同士の理解度を高める活動をこれからも進めていきたいと思っています。

理工学部 物質科学科 1年次 越前わかな  
理工学部 物質科学科 1年次 下田陽南  
教育文化学部 地域文化学科 1年次 森井基貴  
国際資源学部 資源地球科学 1年次 和田臨渡



写真Ⅰ：地域交流広場におけるパネル発表

私たちは現地に赴いて、“もし、その場で地震が起きたら”というシミュレーションの基、とある地点から実際に避難場所まで歩いて逃げるフィールドワークを行いました。それを反映し地図に記したものを「防災マップ」と言い、これを作成しました。そして、このマップをベースに住民の方々との討議を行い、互いに思いつく避難障害を模索しました。

